

1 中沼自然環境保全地域



1 地域指定

- (1) 指定地域 中沼一带（竜ヶ崎市）
- (2) 指 定 昭和49年3月30日（茨城県告示第276号）

2 保全計画の概要

(1) 保全に関する基本的な事項

ア 地域 の 指 定

中沼の面積は約1.1ヘクタールで、他の河川からの流入も、また河川への流出もなく安定した沼である。

ここに生息する動植物も含め自然環境が特異な状態を維持している湖沼として、自然環境保全地域に指定し、保全する。

イ 地域 の 特 質

中沼は明治43年に小貝川があふれてできた「氾濫沼」で、その成因が明らかであることは学術上貴重である。

面積の小さい割には、水深が深く最高の水深は13.4mもあり、この値は関東地方の池沼では最も深い。また、平地に存在する沼では最高の透明度に近い。水質はきれいで、有機物による汚染もなく、沼の表面におけるBODも低く、溶存酸素は沼の表面では6.3～7.1PPMの値を示すが、水深10mの深さでは完全に無酸素か、それに近い状態と変わる。

水温については、8月には沼の表面が29.4℃、水深4mまでは29℃を保つが、水深11mで10.4℃となる。10月には、水深11mでは夏とほぼ同様の10℃の値を示す。冬期においては沼底の水温は5℃を保っている。

水素イオン濃度(PH)は年間を通じて6前後で、深度に関係なく均一した酸性を呈することが特徴である。

中沼は地形、立地条件、陸水学的意義からもわが国で稀に見る特異な自然地域である。

ウ 動植物の分布状況

この沼の植物相は少ないのが一つの特徴である。挺水植物としてはわずかにオモダカ、ヨシ、マコモなどが見られる程度である。浮葉植物もササバモ、ガガブタが少量みられる。さらに沈水植物は、マツモ、クロモ、センニンモなど車軸藻のフラスコモなどが生育しているが、他の池沼に比べると量的にも種類数も少ない。

生息する魚類の主なものはワカサギで、他の沼に見られない動物としては、フサカ幼虫のアカケヨソイカが発見されている。本種ははまだ、茨城県内では他に記録がない。

夏から秋にかけて生育するプランクトンの種類数は約20種で、そのうちケイソウ類が全種数の約半分を占めているのもこの沼の特徴である。

(2) 規制に関する事項

本地域について、関東地方の池沼としての陸水学的価値を認め、永く保全し自然科学の資料として寄与させるため、自然環境を維持する。このため、保全に必要な規制は条例の定めにより行う。

(3) 保全施設

本地域を自然環境保全地域として保全し、日本における陸水学の資料とするため、必要に応じた保全施設を設置する。

説明板等の標識、標柱、柵

(4) 地区の指定に関する事項

本地域の区域は次のとおりとする。

名 称	位 置	区 域	面 積	土地の所有 別 面 積	摘 要
中沼自然環境 保全地域 普通地区	竜ヶ崎市 北方町	竜ヶ崎市北方町 の一部	ヘクタール 1.16	ヘクタール 公有地 1.16	小貝川があ ふれてでき た「氾濫沼」

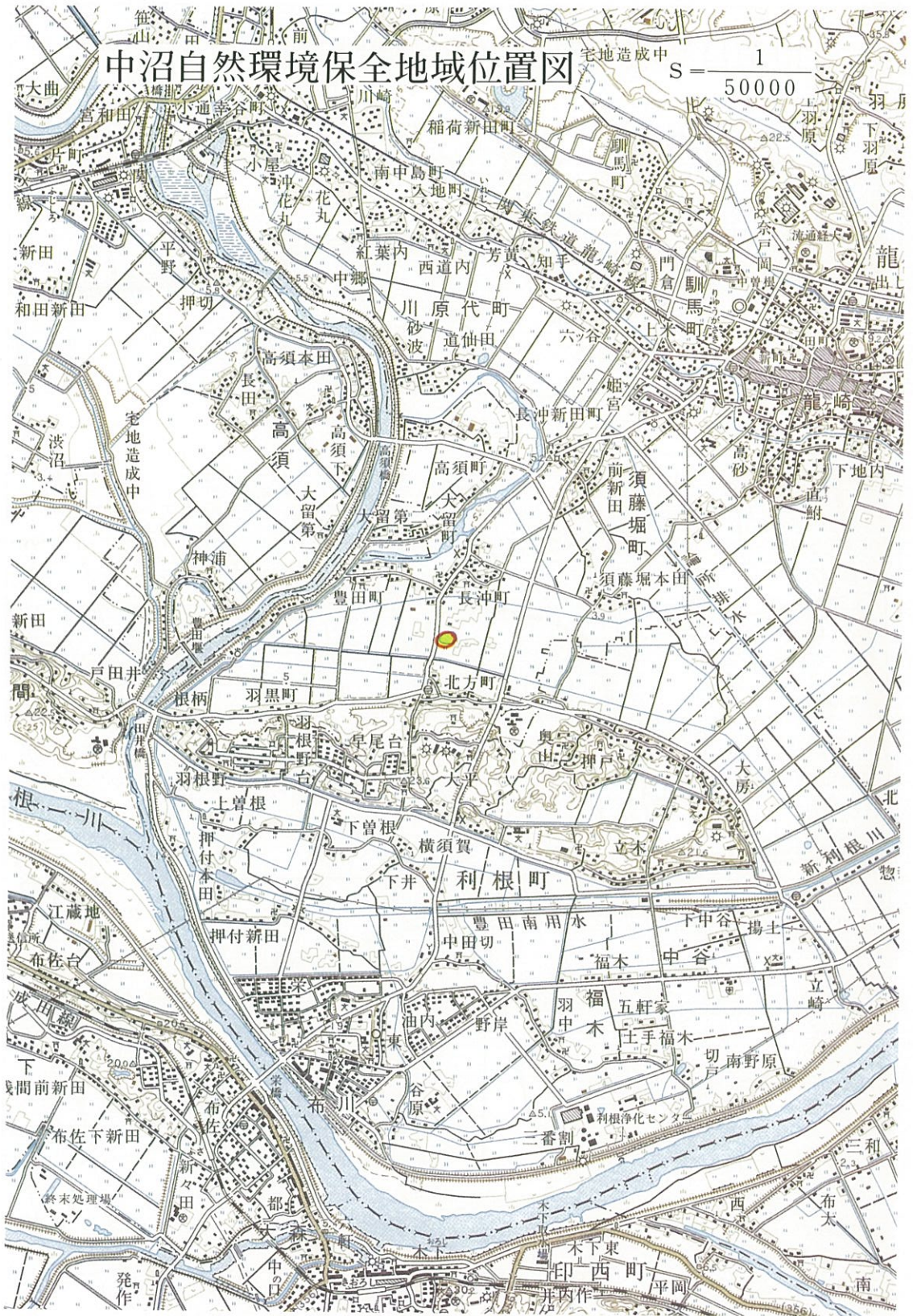
総 括 表

区 分	内 訳			計
	国 有 地	公 有 地	民 有 地	
土地所有別面積 (ヘクタール)	0	1.16	0	1.16

(面積は公簿による。)

中沼自然環境保全地域位置図

宅地造成中 S = $\frac{1}{50000}$



中沼自然環境保全地域区域図

$$S = \frac{1}{5000}$$

